

三世代にわたる食生活と衣生活文化の伝承について

一 祖母との同居・非同居の関連性一

○布施谷節子 小菅充子 (和洋女大)

目的：昔から生活文化は家庭内で代々と受け継がれてきたが、今日の急激な社会変化の中で、衣・食の生活文化の伝承のされ方も急激に変化し、今後もその勢いは加速されることだろう。従って、戦前の生活文化の生き証人世代が健在な現在は、家庭内の三世代の生活文化の伝承の実態を把握する好機であると考えた。そこで、アンケート調査を行い、三世代間の相違と伝承の実態を明らかにすると共に、祖母との同居・非同居の関連性を明らかにすることを目的とした。

資料・方法：アンケート調査によって得られた資料は、本学の女子大生 307 名（第三世代）とその母親 213 名（第二世代）と祖母 196 名（第一世代）の合計 716 名である。調査項目は食生活分野の 28 項目、衣生活分野の 18 項目、並びにフェイスシート 7 項目である。資料の居住地は関東甲信地域がほとんどで、千葉県が中心であった。第一、第二世代の年齢はそれぞれ、40 歳代、70 歳代が多かった。調査は 2000 年 1 月に行った。

結果：①食生活分野では、第一世代と同居している第二世代は、漬け物は家で漬ける、魚と肉とでは魚を食べる、祝い事には赤飯を食べることがそれぞれ多く、正しい配膳ができるという項目で非同居者と有意の差が見られた。第三世代では正月に雑煮を食べる点でも差が見られた。しかし、日頃非常用の飲食物を用意してあるか否かは、同居の方が有意に少なく、また、第三世代では魚のおろしができる者が同居者に少なかった。②衣生活分野では同居・非同居の差が、食生活分野と比べて少なく、衣生活は個人の責任に関わる場所が多いことが明らかとなった。第三世代では不用になった和服や洋服の処分法において同居・非同居に有意な差が見られた。また三世代間では和服から洋服文化への急激な変化が見られた。